

令和3年度 大阪府中学生チャレンジテスト

結果と分析（東大阪市）

令和4年 1 月13日（木）に実施された「大阪府中学生チャレンジテスト」について、東大阪市の結果及び分析を公表します。

●調査結果について●

本調査で得られる結果は学力の特定の一部であることや、平均正答率のみでは生徒の学力については測ることができないことを踏まえ、本調査から得られたデータをもとに学校・家庭・地域が学力に関する課題を共有し、さらなる連携を深め、生徒の学力向上に取り組むことを目的として分析を行った。

●調査目的● （大阪府教育庁作成の実施要領より）

- ①大阪府教育庁が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- ②市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCA サイクルを確立する。
- ③学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

●調査概要●

実 施 日	令和4年1月13日（木）
実施対象学年	中学校1年生 及び 2年生
実 施 教 科	中学校1年生：国語・数学・英語 中学校2年生：国語・社会・数学・理科・英語
調査実施生徒数	中学校1年生 国語：3007人 数学：3009人 英語：3014人 中学校2年生 国語：3131人 社会A：3001人 社会B：144人 数学：3135人 理科A：1415人 理科B：1740人 英語：3144人

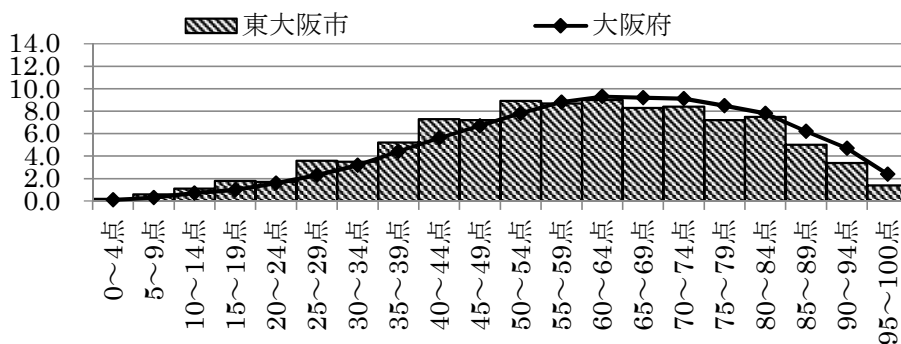
第1学年 国語

■平均得点

58.7 点（東大阪市）

62.2 点（大阪府）

■得点別分布の割合

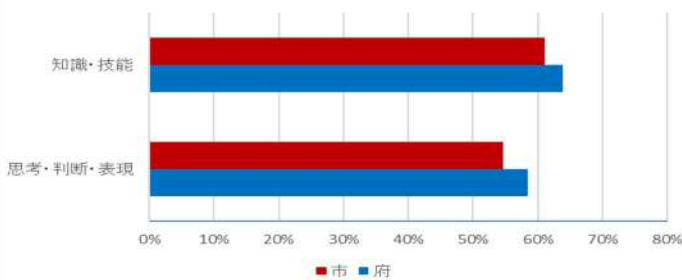


・分布の割合のピークが、60～64点で大阪府と同じような山型になっている。

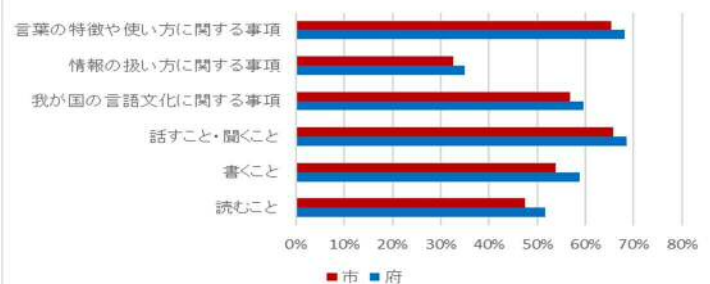
・大阪府の分布と比較して、25～54点の分布が多く、65点以上の分布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率

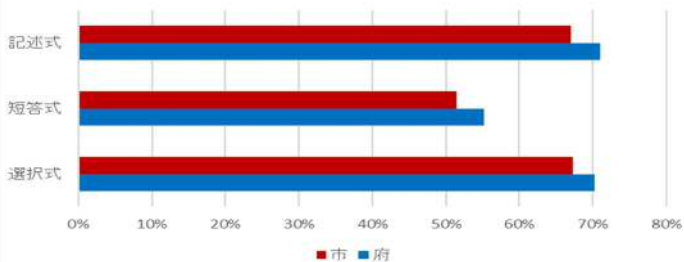
評価の観点別の得点率



学習指導要領の領域別得点率



問題形式別の得点率



・評価の観点別の得点率では、「知識・技能」と比べて「思考・判断・表現」が50%台と低い。

・学習指導要領の領域別得点率では、「情報の扱い方に関する事項」が30%台で他に比べて低い。

■特徴的な傾向と対策

- ・文脈に即して漢字を正しく書く設問において、全6問中、全て大阪府の正答率を下回っている。学習指導にあたっては、文脈に沿って正しい漢字を書くことができるようにすることが大切であることから、単に熟語を反復練習で覚えるのではなく、文脈から同音異義語を選択することや、漢字の持つ意味を考えながら正しく使う習慣を付けるなど、生徒の発達段階に応じた指導を工夫することが必要である。
- ・大問三ー四いの「本文中の内容について書かれた文章の空欄に当てはまる言葉を条件に従って書く」設問では、大阪府の正答率と比較して特に課題がみられる（【市】52.1%【府】58.7%）。学習指導要領の領域では思考・判断・表現の「読むこと」にあたり、文章の内容をとらえ筆者の考えを理解する力が求められる。学習指導にあたっては、説明文を読んでまとめるときは、筆者の考えを整理して順序だてて書く等の言語活動を適宜設定することが大切である。

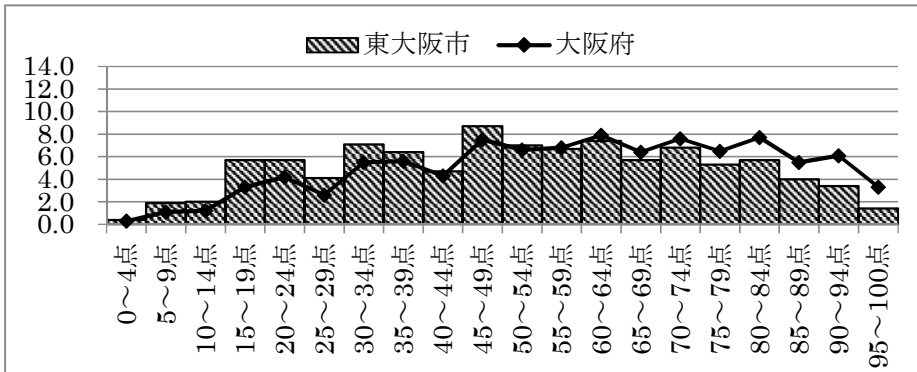
第1学年 数学

■平均得点

51.8 点（東大阪市）

58.5 点（大阪府）

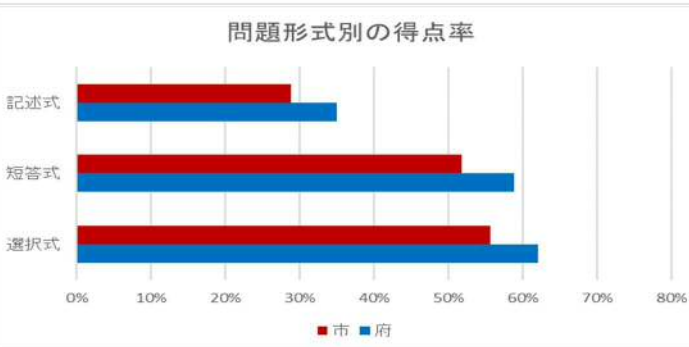
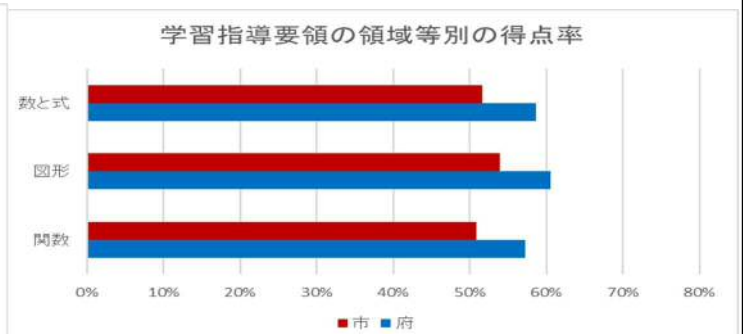
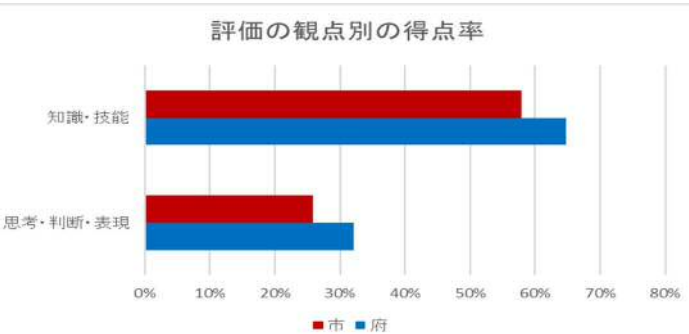
■得点別分布の割合



・府の分布、市の分布ともにグラフに凹凸があり、得点別分布にバラつきがある。

・府の分布と比較して、75点以上の分布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・評価の観点別の得点率では、「知識・技能」が50%を超えていることに対して「思考・判断・表現」は20%台と低い。

・問題形式別の得点率では、「記述式」が20%台と他に比べて低い。

■特徴的な傾向と対策

- ・「 $4(2x+1)-(5-7x)$ を計算する」設問は、全設問中で、大阪府との正答率の開きが最も大きく、差は10.8%であった（【市】45.8%【府】56.6%）。分配法則を使って一次式の加法と減法の計算ができるかを問う設問である。学習指導に当たっては、正しい計算の仕方を確認する活動やドリル学習を取り入れるなど、確実な定着を図る工夫がより一層求められる。
- ・「 n 周目の苗まで植えたとき、すべての苗の本数を n を使った式で表す」設問の後の、「文字を用いた式をどのように導いたかを具体的に説明する」設問は、全設問中で大阪府との無解答率の開きが最も大きかった（【市】39.3%【府】30.4%）。学習指導に当たっては、数学的な表現を用いて自分の考えを説明できるように、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、式、表、グラフなどの「用いるもの」とその「使い方」について明らかにした学習活動が有効である。

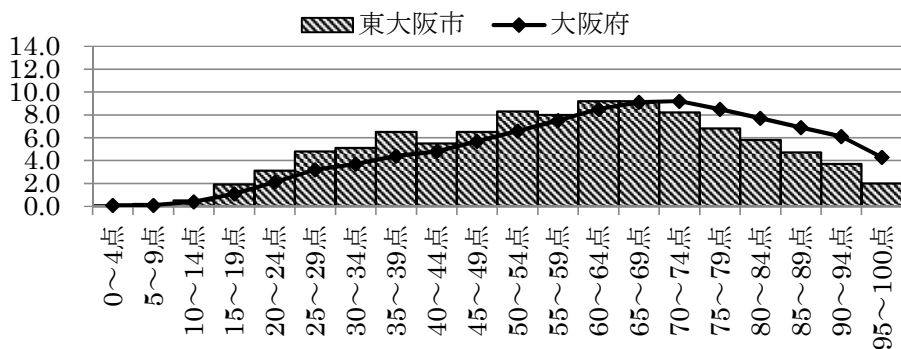
第1学年 英語

■平均得点

57.9 点 (東大阪市)

63.5 点 (大阪府)

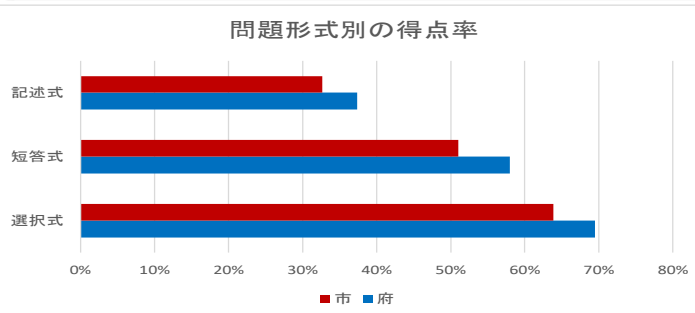
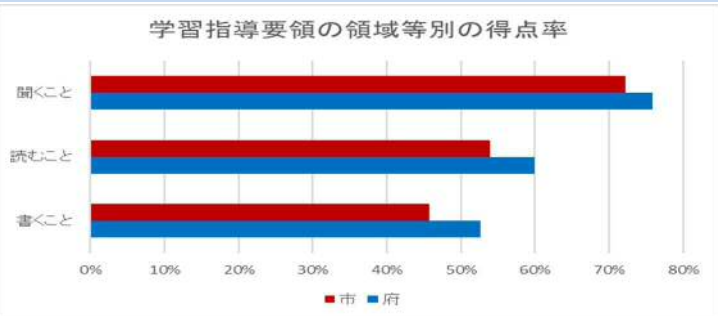
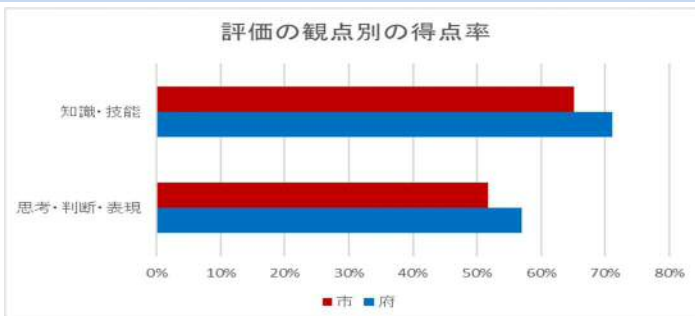
■得点別分布の割合



・分布の割合のピークが 60～69 点で、大阪府と同じような山型になっている。

・大阪府の分布と比較して、特に 70 点以上の分布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・問題形式別の得点率では、「記述式」が30%台と他に比べて低い。

・学習指導要領の領域別の得点率では、「聞くこと」が70%を超えているのに対し、「書くこと」が40%台と低い。

■特徴的な傾向と対策

- ・大問7は「日常的な話題について書かれたポスターと、それについての会話文を読み取る」設問で、会話の大まかな内容を捉えた上で、ポスターの情報と照らし合わせて、必要な情報を読み取る設問7(3)は、正答率が2番目に低い（【市】15.7%【府】22.0%）。読むことの学習指導に当たっては、逐語訳でなく、英文を意味のまとまりごとに捉え、要点や概要を把握する力、必要な情報を英文の中から読み取る力を育成することが求められる。
- ・大問9は「日常的な話題についてのスピーチと、それについての会話文を読み取る」設問で、9(4)のスピーチと質問を読み、質問に対する答えの英文を完成する設問は、正答率が最も低く（【市】9.3%【府】14.2%）、無解答率が最も高い（【市】42.7%【府】36%）。読み取った内容を、コミュニケーションの場面において正しく活用し、書くことに課題がある。「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能を統合的に使用した場面で、語彙や文法を理解し、練習することや、自分の気持ちや考えを伝え合う言語活動を中心に据えた授業を通して、英語で表現する力を育成することが求められる。

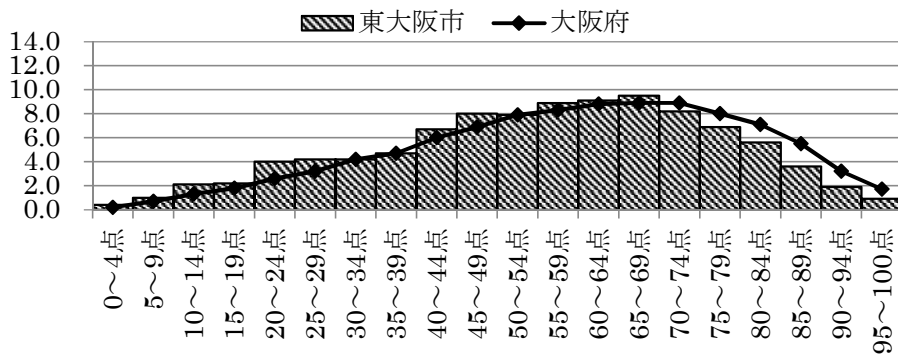
第2学年 国語

■平均得点

55.1 点（東大阪市）

58.8 点（大阪府）

■得点別分布の割合

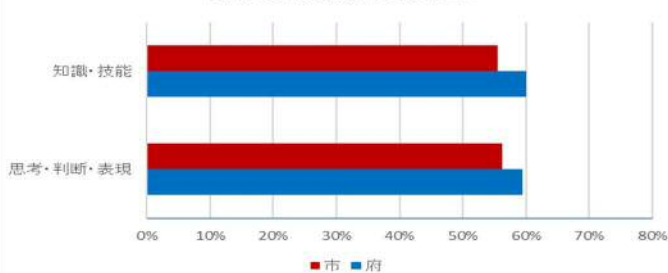


・分布の割合のピークは 65～69 点で、大阪府と同じような山型になっている。

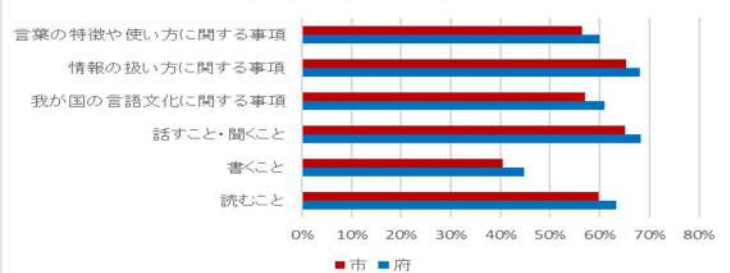
・大阪府の分布と比較すると、特に 75 点以上の分布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率

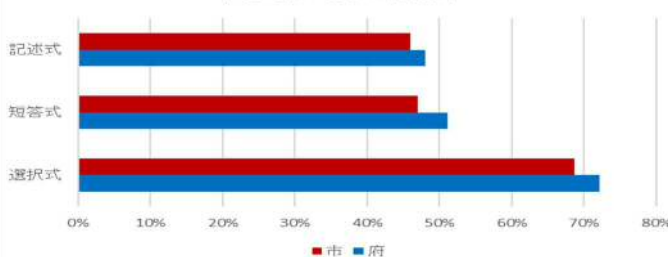
評価の観点別の得点率



学習指導要領の領域別得点率



問題形式別の得点率



・問題形式別の得点率では、「選択式」が約 70%に対して、「短答式」「記述式」は 40%台と低い。

・学習指導要領の領域別得点率では、「書くこと」が 40%台で他に比べて低い。

■特徴的な傾向と対策

・文脈に即して漢字を正しく読む・書く設問においては、「車窓からの景色。」「あの人はキンベンな人だ。」の正答率が大阪府より大きく下回っている。学習指導にあたっては、文脈に沿って正しい漢字を書くことができるようにすることが大切であることから、単に熟語を反復練習で覚えるのではなく、文脈から同音異義語を選択することや、漢字の持つ意味を考えながら正しく使う習慣を付けるなど、生徒の発達段階に応じた指導を工夫することが必要である。

・大問五-I の現代かなづかいに直して書く設問では、大阪府の正答率と比較すると特に課題が大きい（【市】51.8%【府】59.8%）。学習指導要領の領域では、知識及び技能の「我が国の言語文化に関する事項」にあたり、文語のきまりに従って書く力が求められる。学習指導にあたっては、文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れることが大切である。

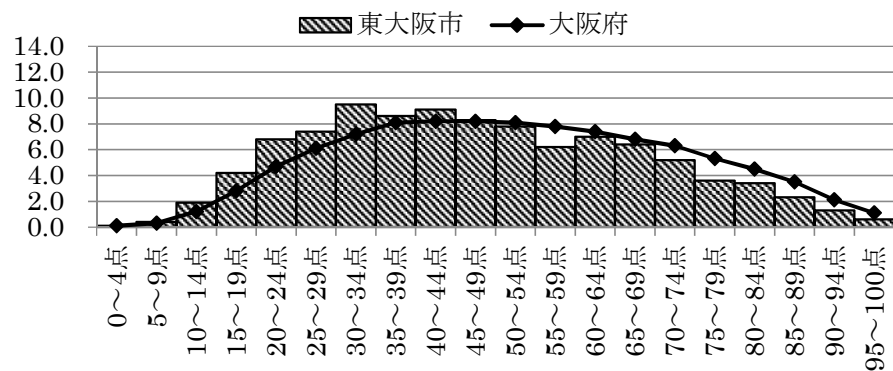
第2学年 社会 A

■平均得点

47.6 点（東大阪市）

52.2 点（大阪府）

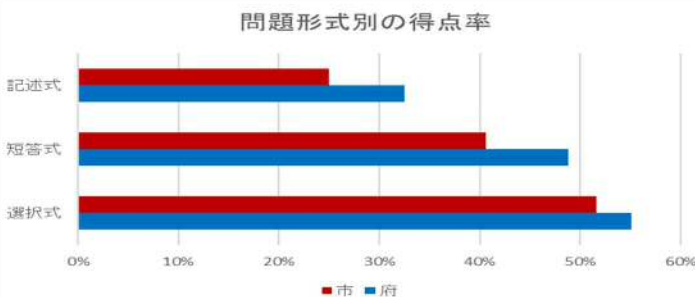
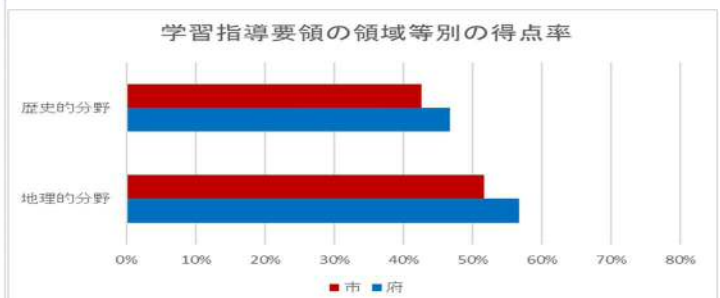
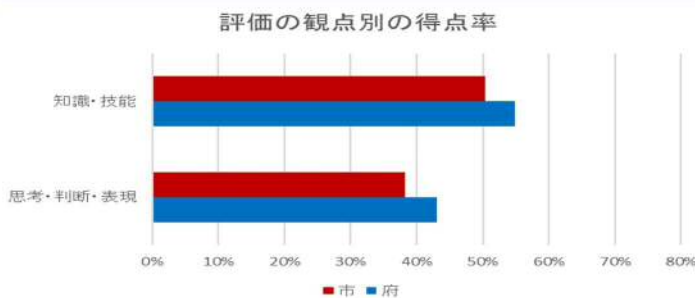
■得点別分布の割合



・30～34点をピークとする左寄りの山型となっている。

・大阪府の分布に比べて、55点以上の分布が少なく、10～44点までの分布が多くなっている。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・評価の観点別の得点率では、「知識・技能」が50%を超えていることに対して、「思考・判断・表現」が30%台と低い。

・問題形式別の得点率では、「記述式」が20%台と他に比べて低い。

■特徴的な傾向と対策

- ・「商品価値を高めて販売する方法を書く」設問は、府との正答率の開きが最も大きく（【市】29.9%【府】45.9%）、差は16.0%であった。この設問も含め、短答式の正答率はすべて大阪府より低く、基本的な社会的事象についての知識・理解の定着に課題がある。
- ・「図や表から読み取れる情報をもとに、気候に関連づけて考察し、説明する」設問では、大阪府との正答率の開きが大きかった（【市】24.7%【府】31.7%）。図や表から情報を読み取り、説明する力に課題がある。学習指導にあたっては、日ごろから自分の意見や考えを書く時間を設定したり、条件付き作文等の課題設定の工夫をしたりすることが求められる。

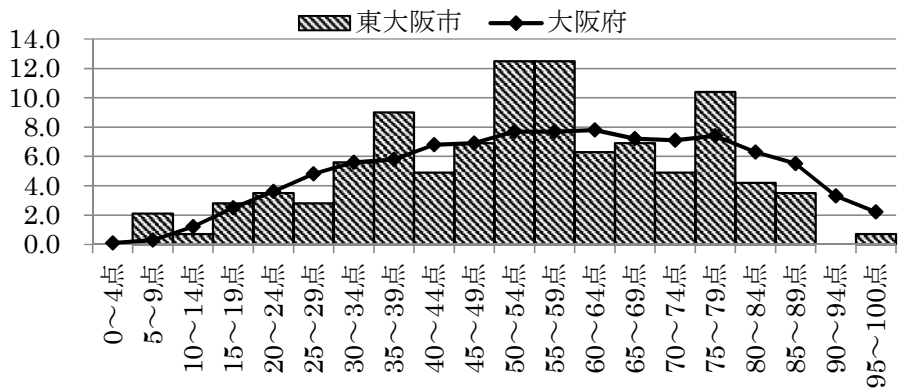
第2学年 社会B

■平均得点

53.5 点（東大阪市）

56.8 点（大阪府）

■得点別分布の割合

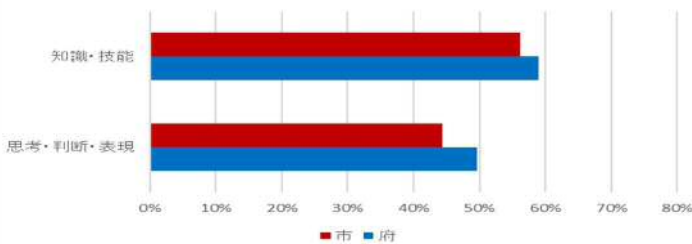


・ピークは50～59点であるが、得点分布にばらつきがある。

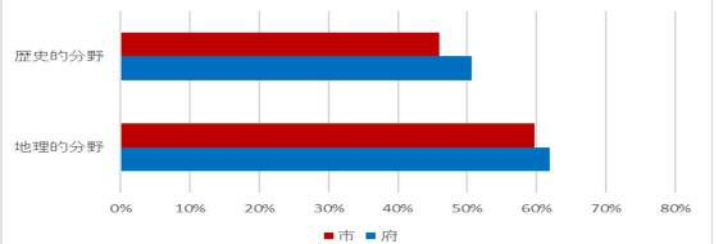
・府の分布と比較して、80点以上の分布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率

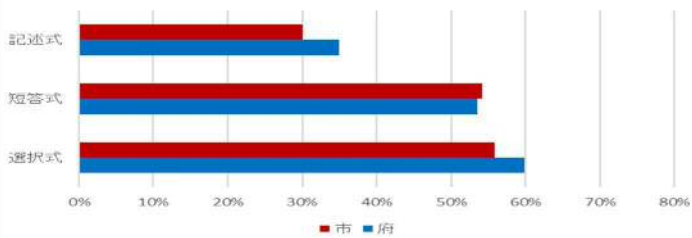
評価の観点別の得点率



学習指導要領の領域等別の得点率



問題形式別の得点率



・問題形式別の得点率では、「記述式」は30%と他に比べて低い。

・学習指導要領の領域等別の得点率では、「歴史的分野」よりも「地理的分野」が高い。

■特徴的な傾向と対策

・短答式については、正答率において府を上回っており（【市】55.3%【府】54.1%）、江戸時代に使われるようになった農具の名前を書く設問については府を大きく上回っていた。（【市】82.6%【府】63.6%）基本的な歴史的分野についての知識・理解が定着していることが分かる。

・「図や表から読み取れる情報をもとに、気候に関連づけて考察し、説明する」設問では、大阪府との正答率の開きが大きかった（【市】22.9%【府】33.9%）。図や表から情報を読み取り、説明する力に課題がある。学習指導にあたっては、日ごろから自分の意見や考えを書く時間を設定したり、条件付き作文等の課題設定の工夫をしたりすることが求められる。

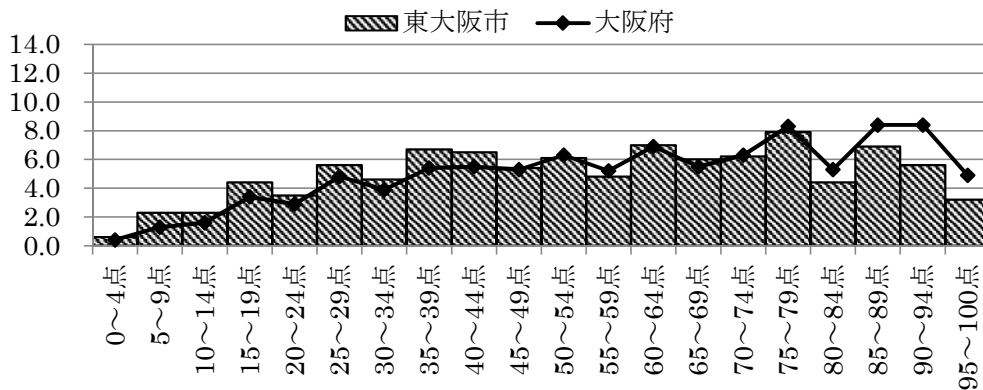
第2学年 数学

■平均得点

55.5 点（東大阪市）

60.1 点（大阪府）

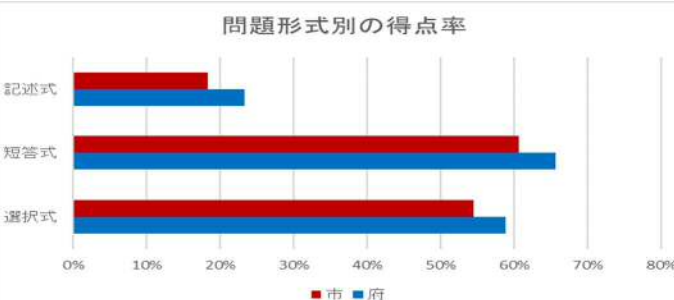
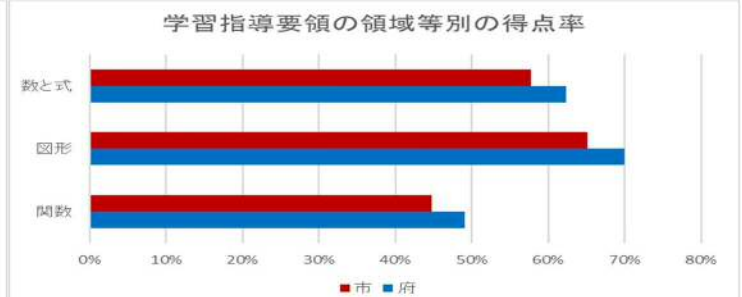
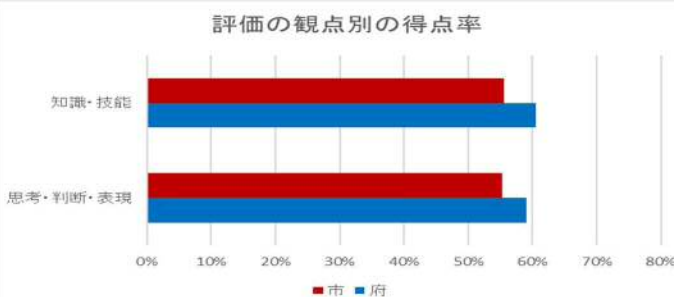
■得点別分布の割合



・府の分布、市の分布ともにグラフに凹凸があり、得点別分布にバラつきがある。

・府の分布と比較して、80点以上の分布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・問題形式別の得点率では、「短答式」「選択式」の得点率が60%や50%を超えていることに対して、「記述式」は20%を切っている。

・学習指導要領の領域等別の得点率では、「関数」が40%台と他に比べて低い。

■特徴的な傾向と対策

- ・「多角形の内角の性質を用いて合同な図形の対応する角の大きさを求める」設問は、全設問中で、大阪府との正答率の開きが最も大きく、差は7.5%であった（【市】49.5%【府】57.0%）。図形の合同について理解しているかを問う設問であり、対応する図形の角度は等しいという基本の知識である。学習指導に当たっては、合同な図形の性質を理解し、対応する角度を確認する活動やドリル学習を取り入れるなど、確実な定着を図る工夫がより一層求められる。
- ・「手順通りに求めた数から最初に決めた自然数を求める方法を選ぶ」設問の後の、「最初に決めた自然数を n とするとき、手順通りに求めた $3(n+4)+n$ が4の倍数になることの説明を完成する」設問は、全設問中で大阪府との無解答率の開きが最も大きかった（【市】45.8%【府】40.2%）。学習指導に当たっては、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することができるように、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定した学習活動が有効である。

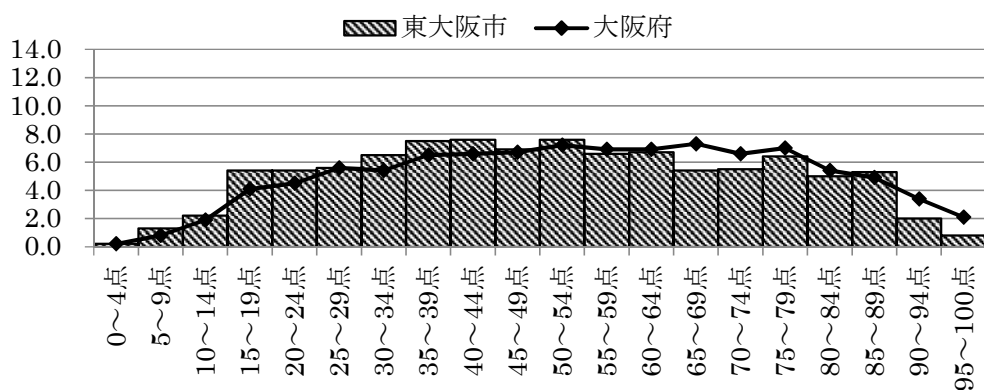
第2学年 理科A

■平均得点

51.1 点（東大阪市）

54.4 点（大阪府）

■得点別分布の割合

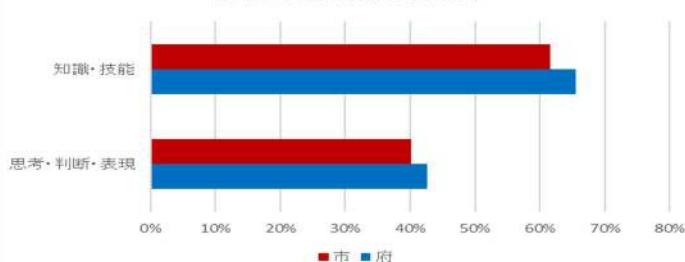


・50～54 点がピークとなる、
なだらかな山型となっている。

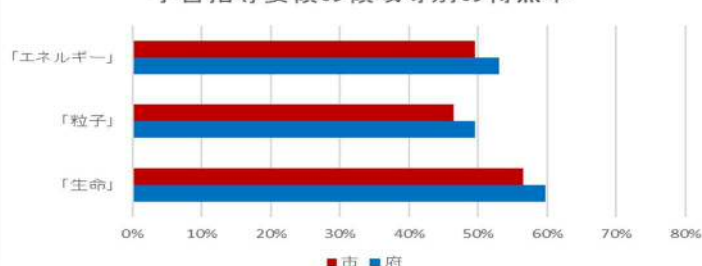
・大阪府の分布と比較して、65
点～74 点と 90 点以上の分
布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率

評価の観点別の得点率

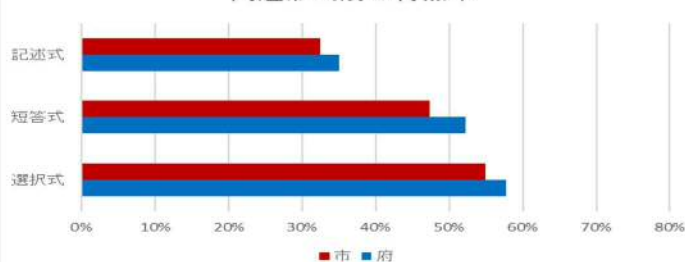


学習指導要領の領域等別の得点率



・評価の観点別の得点率では、「知識・技能」が
60%を超えているのに対し、「思考・判断・表現」
は 40% 台と低い。

問題形式別の得点率



・問題形式別の得点率は、「記述式」が 30% 台と
他に比べて低い。

■特徴的な傾向と対策

・「酸素の多いところでは酸素と結びつき、酸素の少ないところで酸素をはなす性質をもった赤血球にふくまれる物質の名前を書く」設問では、大阪府と正答率の開きが最も大きかった（【市】45.6%【府】52.5%）。解答の「ヘモグロビン」という言葉は知識として知っているが、それがどのような性質を持っているか、どのような働きをするのか等を結び付けて理解できていなかったためと考えられる。

・「有機物を燃焼させると質量が小さくなる理由を、燃焼によって生じる2つの物質を用いて30字以内のことばで書く」設問では、すべての問題の中で最も正答率が低かった（【市】11.2%【府】14.4%）。このことから、科学的な根拠に基づいて要約する力に課題がある。学習指導にあたっては、レポートの作成や発表を適宜行い、科学的な根拠に基づいて要約する力を育成する授業改善が求められる。

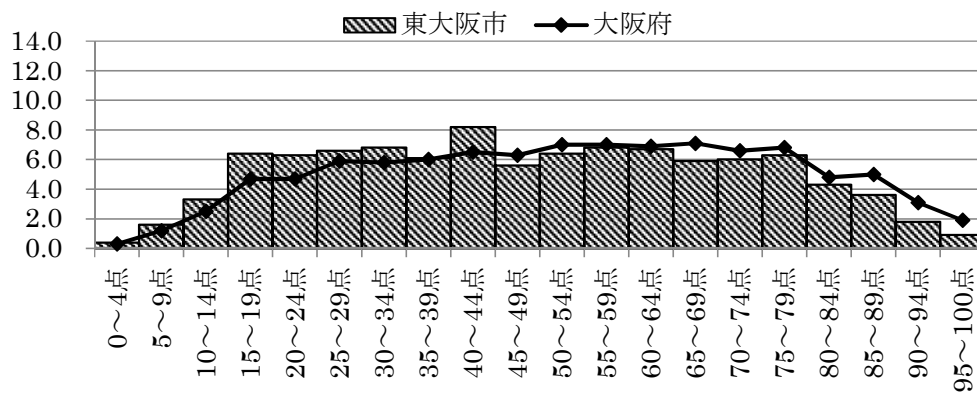
第2学年 理科B

■平均得点

48.9 点（東大阪市）

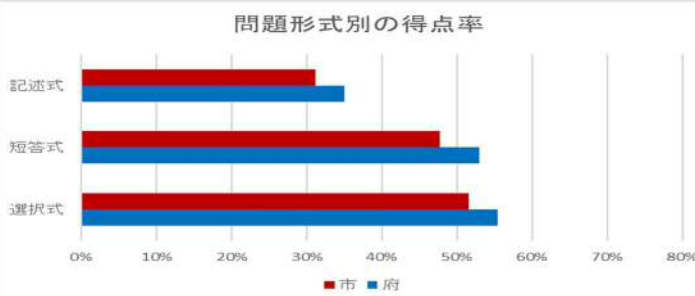
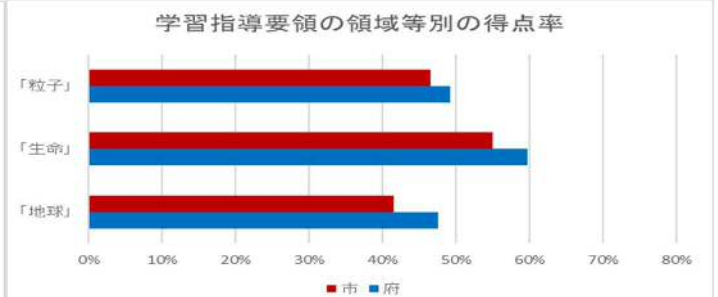
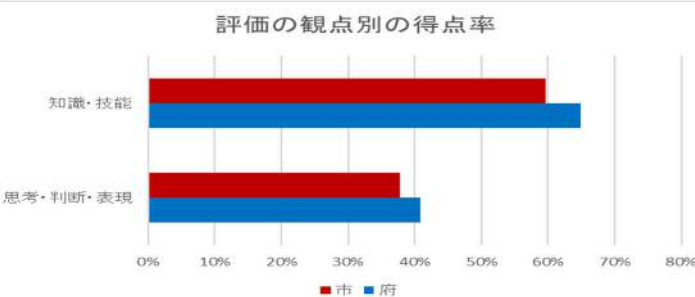
53.1 点（大阪府）

■得点別分布の割合



- ・40～44点がピークとなる、なだらかな山型となっている。
- ・大阪府の分布と比較して、80点以上の分布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



- ・問題形式別の得点率は、「記述式」が30%台と他に比べて低い。
- ・学習指導要領の領域等別の得点率では、「生物」が50%台と他の領域よりも高い。

■特徴的な傾向と対策

- ・「空気中の水蒸気が水滴に変わり、コップの表面に水滴がつき始める温度の名前を書く」設問は、大阪府と正答率の開きが最も大きかった（【市】60.1%【府】69.9%）。解答の「露点」という言葉は知識として知っているが、それがどういう状態なのか等を結びつけて理解できていなかったためと考えられる。
- ・「有機物を燃焼させると質量が小さくなる理由を、燃焼によって生じる2つの物質を用いて30字以内のことばで書く」設問は、すべての設問で最も正答率が低かった（【市】10.6%【府】13.6%）。このことから、科学的な根拠に基づいて要約する力に課題がある。学習指導にあたっては、レポートの作成や発表を適宜行い、科学的な根拠に基づいて要約する力を育成する授業改善が求められる。

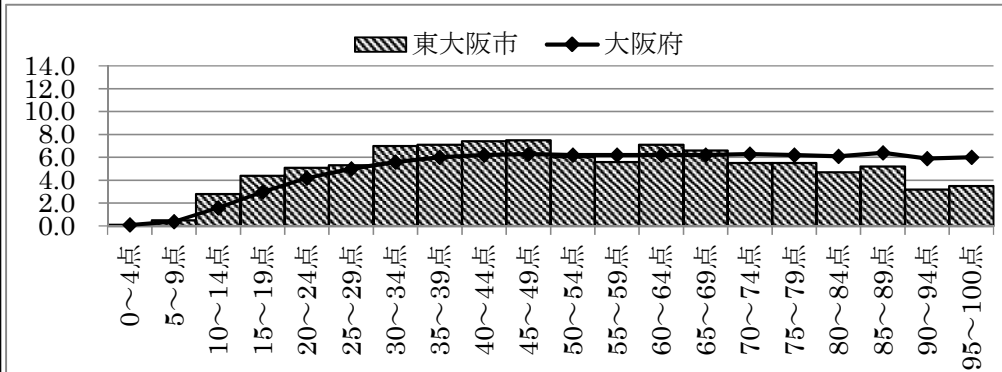
第2学年 英語

■平均得点

53.2 点 (東大阪市)

58.5 点 (大阪府)

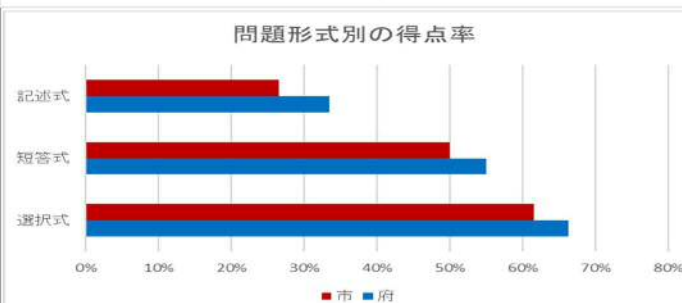
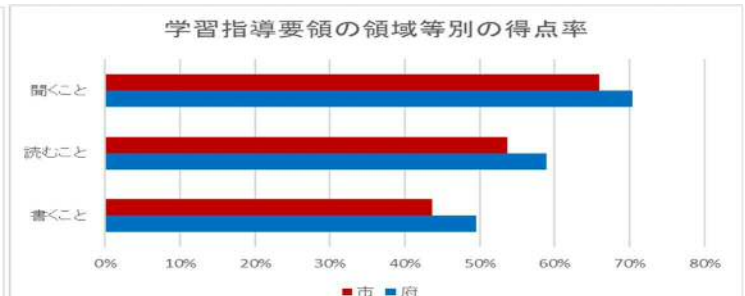
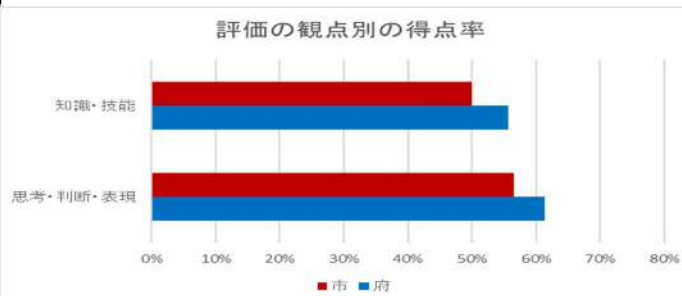
■得点別分布の割合



・分布の割合のピークが 45～49 点で、大阪府と同じような山型になっている。

・大阪府の分布と比較して、特に 70 点以上の分布が少ない。

■「学習指導要領の領域別」・「評価の観点別」・「問題形式別」の得点率



・問題形式別の得点率では、「記述式」が 20% 台と他に比べて低い。

・学習指導要領の領域別の得点率では、「書くこと」が 40% 台と他に比べて低い。

■特徴的な傾向と対策

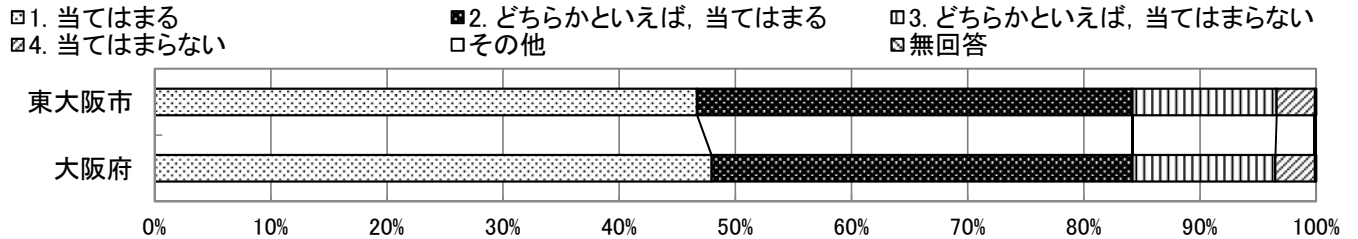
・大問7の「会話文を読み、会話の流れに合うように、指示された語数の英語で答える」設問については、大問7を通して正答率が大阪府と比較して低く、7(1)は府との開きが特に大きい(【市】16.9%【府】25.5%)。7(1)は、対話の答えから質問を考え、正しい語順で答える設問であり、前後の文脈を読み取り、場面に応じた適切な英文を書くことに課題がある。語彙や文法については、語彙や文法が使用されている状況と結びつけて理解し、文脈のなかで使えるよう、場面を設定し書く指導が求められる。また、日常的な話題で会話を続けるための表現や語彙を定着するため、英語のやりとりを中心に据えた授業を行う必要がある。

・大問9は「日常的な話題について、メール文のやりとりを読みとる」設問である。9(1)はメール文の内容から、質問の答えを選ぶ設問で正答率が低い(【市】30.4%【府】33.5%)。まとまった量の英文を読み、概要や要点を読み取ることに課題がある。読むことの学習指導に当たっては、まとまった量の英文を、逐語訳でなく、意味のかたまりごとに捉える指導が求められる。題材として、英語で書かれたメール、広告、パンフレット等を用いて、必要な情報を読みとらせる指導を通して、実際のコミュニケーションの場面で英語を読む力を育成する必要がある。

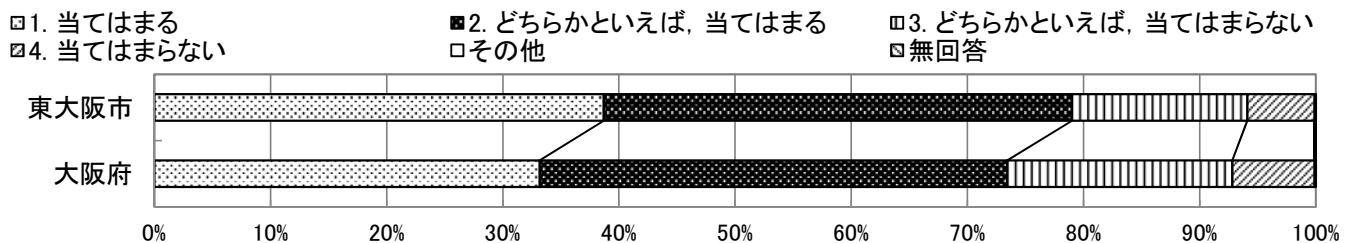
アンケート結果

■中学校1年生

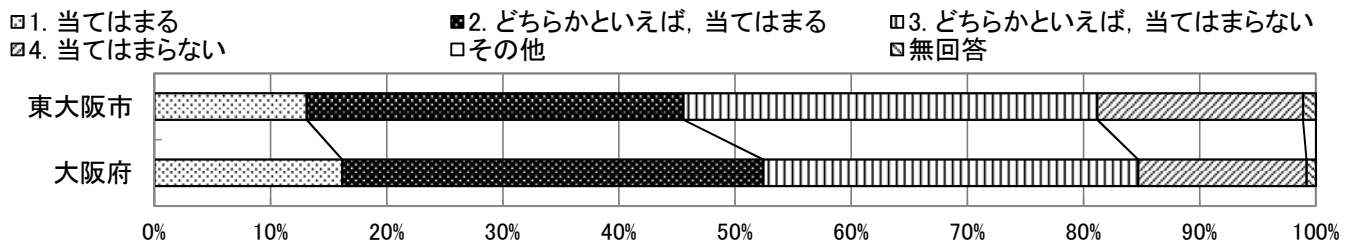
・授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



・授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。

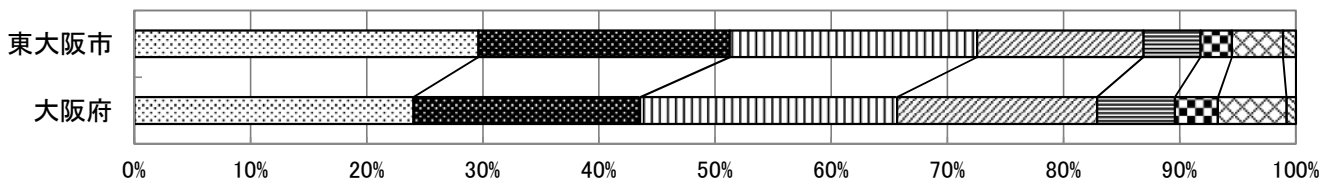


・自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



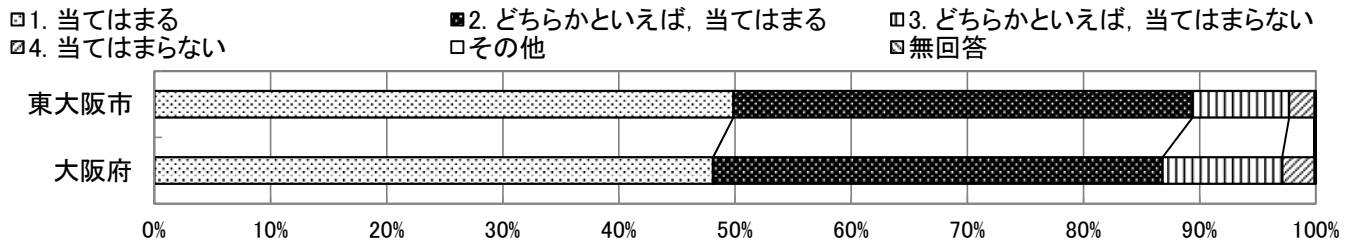
・普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。

- 1. 4時間以上
□3. 2時間以上、3時間より少ない
■5. 30分以上、1時間より少ない
□7. 携帯電話やスマートフォンを持っていない
■2. 3時間以上、4時間より少ない
□4. 1時間以上、2時間より少ない
□6. 30分より少ない
□ その他

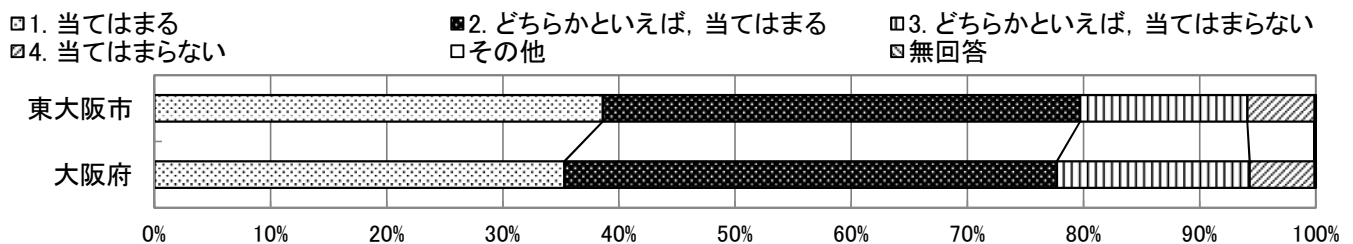


■中学校2年生

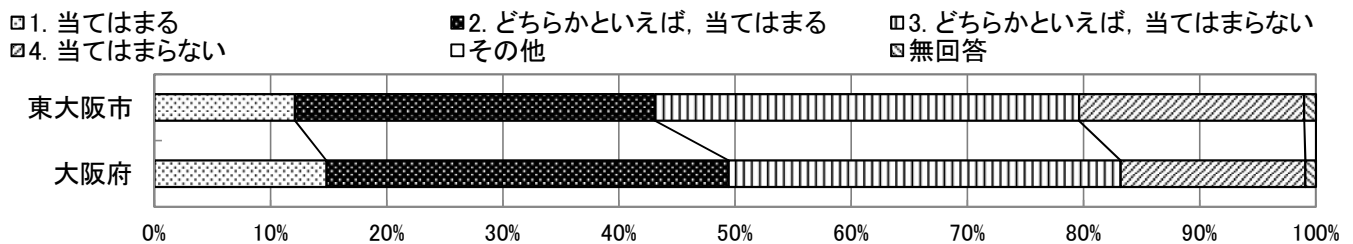
・授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



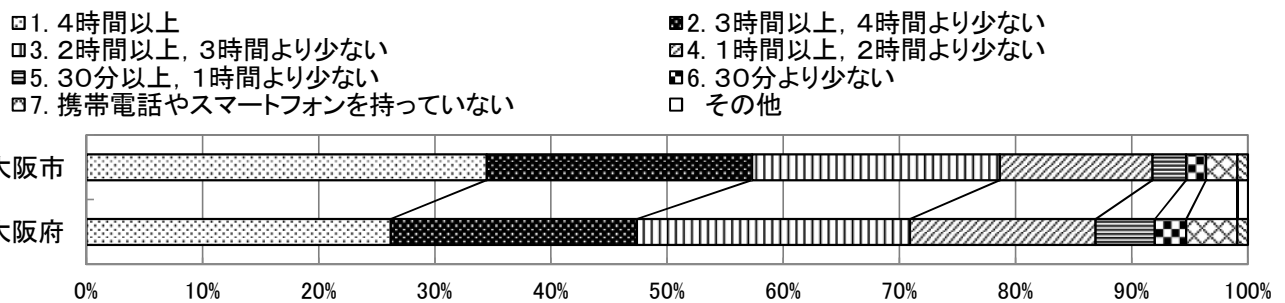
・授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



・自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



・普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。



■特徴的な傾向と対策

・1,2年生ともに「授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。」の項目において、大阪府より高い肯定的回答率となっている。学校図書館や一人一台のタブレット端末の活用が進んでいるものと考えられる。一方で「自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。」は大阪府より低い肯定的回答率となり、「普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。」については、大阪府より多くの時間使用している。主体的に学習に取り組む態度の育成のために、子どもたちが進んで学びに向かうような更なる授業改善、また家庭との連携が求められる。